

I. 活動成果及び今後の課題

(注) 各項目の記述には必要な分量のスペースを使ってください。

(1) 活動成果
2026年2月にタイで行われたアジア最大規模の大会「アジアジュニアマスターズ2026」へ日本代表として出場権をいただき、本助成金支援のおかげもあり出場することができました。
大会1日目前半終了時点では2位で折り返すことができ、世界トップレベルの選手たちと十分に戦える手応えを得ることができ、本人にとっても自信につながったと思います。
しかしながら、大会1日目の後半、肘の負傷により思うようにプレーできず、大会2日目で棄権する結果となりました。助成金という形でご支援をいただいたのにもかかわらず、最後まで競技をやり遂げることができなかったことにつきまして、誠に心苦しく感じております。
結果として個人戦は途中棄権となりましたが、団体戦では3位に入賞し、チームメイトとともに表彰台に上がることができました。
本大会を通じて、現時点での自身の競技力や課題を客観的に把握できたことは大きな成果であり、海外という慣れない環境での競技経験は精神面の成長にもつながる貴重な機会となりました。
さらに、寒い日本から気温の高いタイへ移動し、約20～30度の温度差がある中でコンディションを調整しながら競技に挑んだことも気候の変化に対応する力を養う良い経験になりました。
また、海外の選手と積極的にコミュニケーションを取りたいという想いが強くなり、帰国後は自ら英語学習に取り組むようになりました。今後は英会話教室にも通う予定であり、競技力だけでなく国際的な場で通用する力を身につけていきたいと考えております。
(2) 今後の課題
今回の大会で得た悔しさと学びを今後に生かすため、まず最優先の課題は肘の怪我を確実に治し、再発を防ぐことです。成長期にあるため、無理をせず身体の状態と向き合いながら、長期的な視点で競技に取り組んでいく必要があります。日々の練習においても、コンディション管理や身体のケアを重視し、競技を長く続けられる基盤づくりに努めてまいります。
また、今回の国際大会を通じて、世界トップレベルの選手と戦う中で自信に不足している点や今後強化すべき課題が明確になりました。
さらに、世界の選手と英語でコミュニケーションを取りながらプレーできるようになることも今回得た課題の一つです。試合中や試合前後の場面において、円滑な意思疎通ができるよう、英語学習を継続し、英会話教室への参加を通じて実践的な力を身につけていきたいです。
また、今回の大会は当初より優勝を目標に準備を重ねてきた大会であり、途中棄権という結果は本人にとって非常に悔しさの残るものとなりました。この悔しさを糧に「必ずこの大会に戻り、優勝する」という強い意志を持って、来年、再来年も継続して本大会への出場を目指します。
そのためにも、本大会に限らず国際大会に積極的に出場し、海外での競技経験を重ねながら将来世界で戦えるプロゴルファーになることを目標に取り組んでまいります。
本大会の挑戦にあたり、助成金のご支援をいただきましたことに改めて心より感謝申し上げます。

記録写真等貼付欄（画像印刷可）

活動の様子を記録した画像・写真等がある場合は、このスペースに貼付してください。

※スペースが足りない場合は、別途添付してください。

お送りいただいた写真等は原則として返却いたしませんのでご注意ください。

